

ハマフエフキの採卵

仲盛 淳・金城清昭・立津政吉・小濱健徳^{*1}・仲原英盛^{*2}

1. 目的

ハマフエフキの放流用及び養殖用種苗の生産に必要な受精卵を採卵することを目的とする。

2. 材料と方法

採卵には 50kℓ屋内円形水槽(内径 6m、深さ 2.15m)を用いた。採卵に用いた親魚は、平成 20 年度採卵に使用した魚と同一群である(金城ほか,2008)。採卵親魚の大きさは、全長 61 ~ 72cm、体重 3.56 ~ 6.54kg で、雌雄比は不明である。

平成 21 年 2 月 3 日に 20 尾の親魚を海面生簀から陸揚げした。平成 21 年 4 月 8 日には池換えを実施し、平成 21 年 6 月 10 日までの 127 日間の飼育を行った。

原則として月、金曜日の週 2 回はムロアジあるいはヤマトミズンなどの冷凍魚と冷凍マツイカを解凍後ぶつ切りにしてピュアミックスマリン(日清丸紅餌料)、健康バナナ(日本農産)を適量添加して給餌した。また、それ以外の火、水、木、土、日曜日の週 5 回はマダイ用 EP ペレット(日清丸紅餌料製、EP スーパー 12 号)に総合栄養剤及びバナナ粉末をコーティングした手作り飼料を給餌した。ただし、平成 21 年 5 月 13 日以降は前述した栄養剤付き配合飼料のみを与え、土日祝祭日は無給餌とした。

魚病予防対策として、水槽の水位を毎日午前中に低水位(水量 18kℓ内外)にして換水率を高め、午後には通常水位に戻した。換水率は、低水位時で 24 回転/日程度、通常水位時で 5 回転内外/日程度とした。また、飼育水中の銅イオン濃度が 60 μg/ℓ程度になるように銅イオン発生装置を適宜作動させて白点病やハダムシ寄生を予防した。

産出された卵は、表層水をサイホンで抜き取り、採卵

槽に設置した採卵ネット(網地の目合い 0.53mm、大きさ約 55cm × 約 75cm × 約 70cm)で濾して採取した。サイホンには内径 38mm のホースに塩化ビニールパイプを取り付けものを 4 本用いた。

採卵重量は、採卵した卵を計量用のネットで濾して海水をよく切り、電子秤で計量して求めた。

3. 結果

採卵期間の飼育水温変化と採卵重量の変化を図 2 に示した。

産卵促進のための飼育水の加温は 3 月 24 ~ 26 日、29 ~ 31 日および 4 月 1 日 ~ 3 日、5 ~ 6 の間に 22.5 に設定して行った。また、採卵ネットは、3 月 17 日から沖出する 6 月 10 日まで設置した。採卵ネット設置期間 85 日間のうちの 66 日間で採卵でき、総採卵重量は 155.0kg であった。日最大採卵重量は 5 月 20 日に得られた 10,040g であった。

得られた受精卵は、3 月 30 日、31 日に其々 2,885g と 2,522g、4 月 6 日、8 日、20 日には 2,219g、2,067g 及び 3,341g、5 月 25 日には 6,245g の分離浮上卵を合計 6 回の種苗生産に供した。

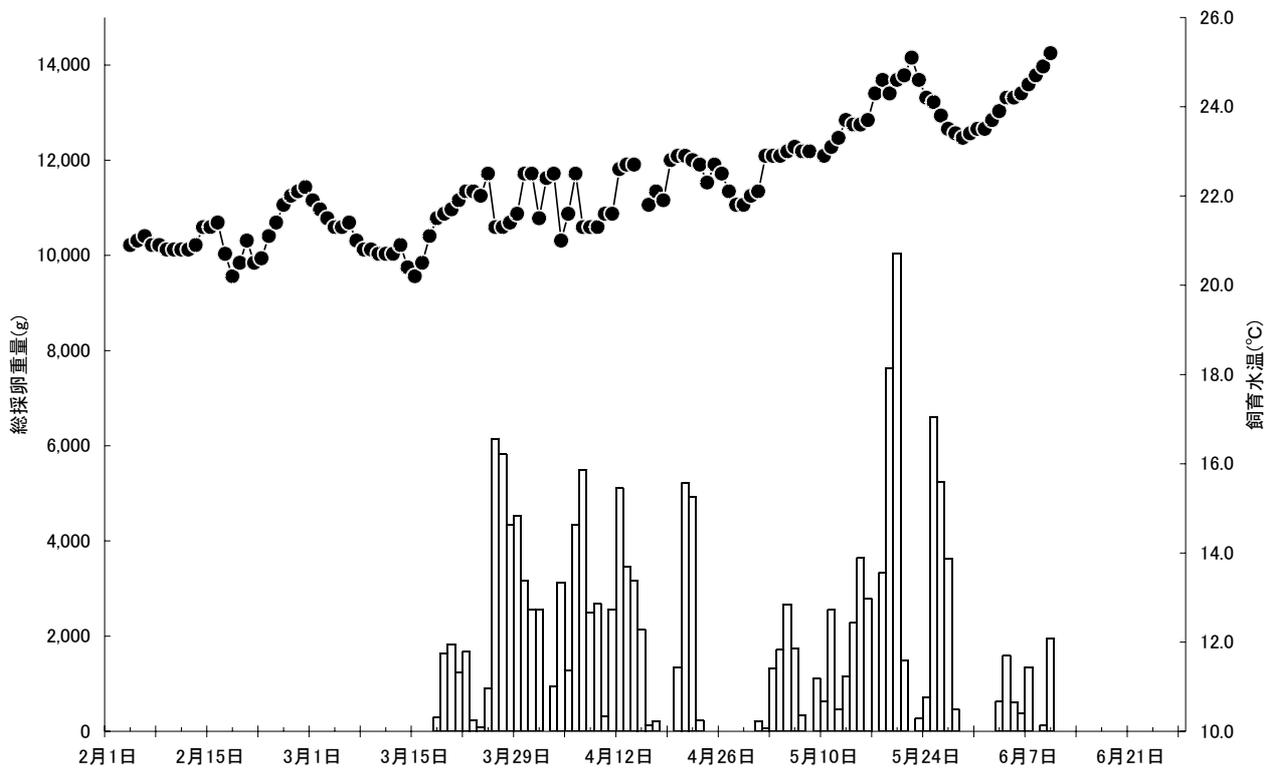
陸揚げから沖出しまでの間に、チタン熱交換器や注水口に衝突したと思われる傷は見られたが、魚病の発生や水槽からの飛び出しなどは確認されなかった。

4. 参考文献

金城清昭, 安井理奈, 仲盛淳, 鳩間用一, 甲斐哲也, 岩井憲司, 立津政吉, 小濱健徳, 仲原英盛. ハマフエフキの採卵. 平成 20 年度沖縄県栽培漁業センター事業報告書 2008; 17-19.

*1 現所属:家畜改良センター

*2 現所属:家畜改良センター



平成21年度 ハマフエフキ採卵量と飼育水温変化
 ● - 飼育水温 □ - 総採卵重量